

入院中のベンゾジアゼピン系抗不安薬・睡眠薬処方割合（高齢者）

【指標の説明】

向精神薬の使用はリスクが伴います。特に高齢者については、転倒、それによる骨折などのリスクが考えられ（高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015）、特にベンゾジアゼピン系抗不安薬・睡眠薬の利用が少ないほうが、より安全と考える策定した指標です。

当院で採用されているベンゾジアゼピン系抗不安薬・睡眠薬は下記の通りです。

- ・抗不安薬→リーゼ、クロチアゼパム、デパス、エチゾラム、コンスタン、ソラナックス、アルプラゾラム、ワイパックス、ロラゼパム、セルシン、セレナミン、ジアゼパム、セバゾン、クロキサゾラム、メイラックス、ロフラゼプ酸エチル、セディール、タンドスピロン、フェノバル、フェノバルビタール
- ・睡眠薬→レンドルミン、プロチゾラム、ベンザリン、ニトラゼパム、ユーロジン、エスタゾラム

【定義・計算方法】

$$\frac{\text{分母のうち入院中、ベンゾジアゼピン系抗不安薬・睡眠薬の処方があった患者数}}{\text{60歳以上の入院患者数}} \times 100 (\%)$$

【データ収集期間】

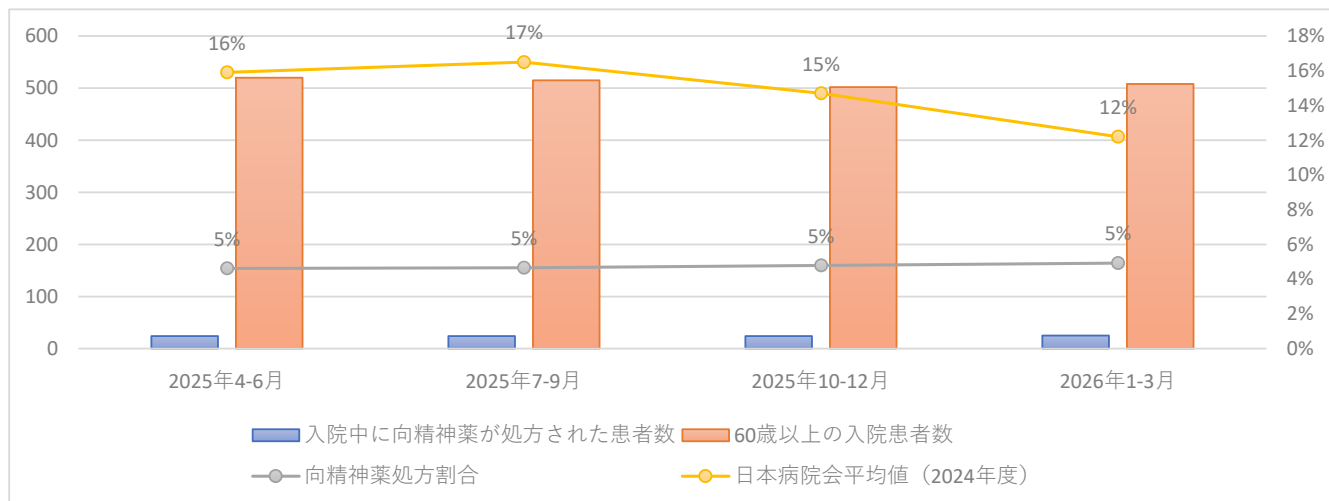
3ヶ月毎

【データ抽出方法】

分子：EFファイル / 分母：DPC様式1

【値の解釈】

プロセス / 低い値が望ましい



【年次推移】

